

こども会活動に関するアンケート結果

平成31年（2019年）3月

茨木市教育委員会 教育総務部 社会教育振興課

目次

I アンケート調査の概要

- 1 調査の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

II 調査結果

- 1 現在のこども会活動について・・・・・・・・・・・・ 2
- 2 こども会活動の課題について・・・・・・・・・・・・ 8
- 3 こども会加入に向けての取組みについて・・・・ 11
- 4 社会教育振興課の取組みについて・・・・・・・・ 14

III アンケートのまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・ 16



I アンケート調査の概要

1 調査の目的

こども会活動の実情を調査することにより、今後のこども会活動の活性化に向けての取組みへの基礎的な資料とすることを目的とする。

2 調査の概要

(1)調査対象

単位こども会：219

小学校区こども会育成連絡協議会：29

(2)調査方法

郵送配布、郵送および持参による回収

(3)調査期間

平成30年1月24日（水）～平成30年3月3日（土）

(4)回収率

単位こども会：回収数139件・回収率63.5%

小学校区こども会育成連絡協議会：回収数8件・回収率27.6%

(5)集計の結果についての留意点

- ・次ページ以降に標記している回答比率（すべて百分率（%）で表示）は、単位こども会の場合は回収数（139件）・校こ連の場合は回収数（8件）を分母に（●●）の回答数を割ったものになります。小数点第二位を四捨五入して表示しています。※4の問2のみ、前問4の問1の「ない」の回答数を分母に（●●）の回答数を割ったものになります。
- ・その他自由記入欄は、原則、実際に記入されていた内容をそのまま記載しています。

※単位こども会：町内の単位で組織されるこども会

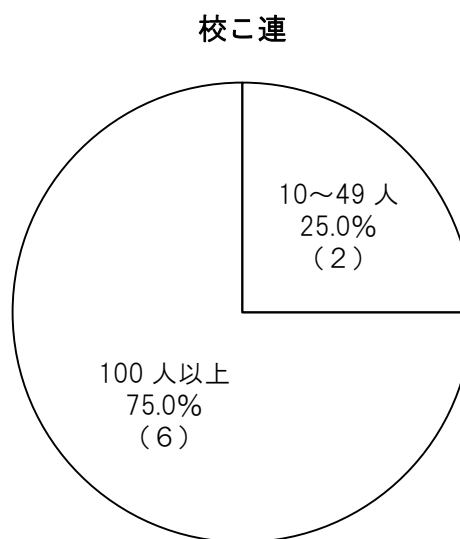
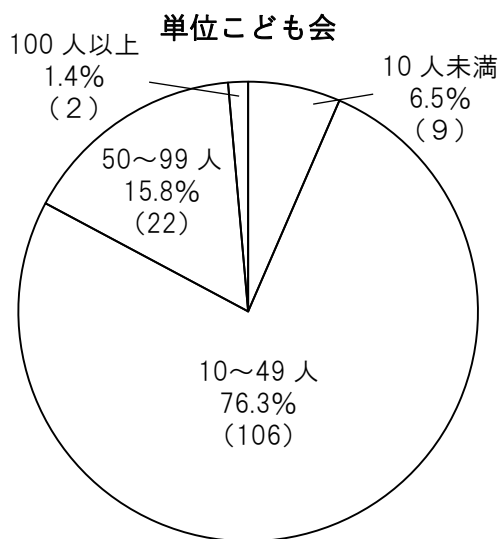
※小学校区こども会育成連絡協議会：小学校区ごとの単位こども会の集まりで組織されるこども会
（略称：校こ連）

Ⅱ 調査結果

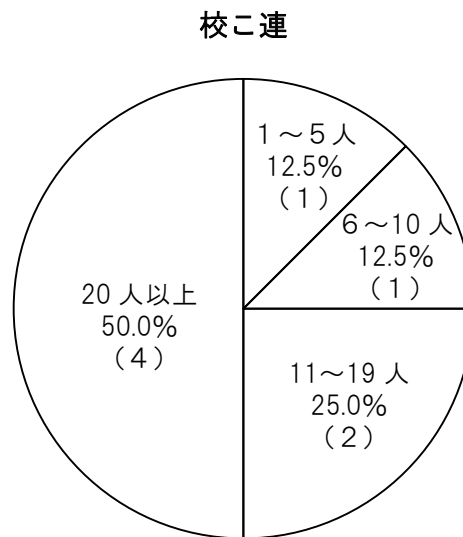
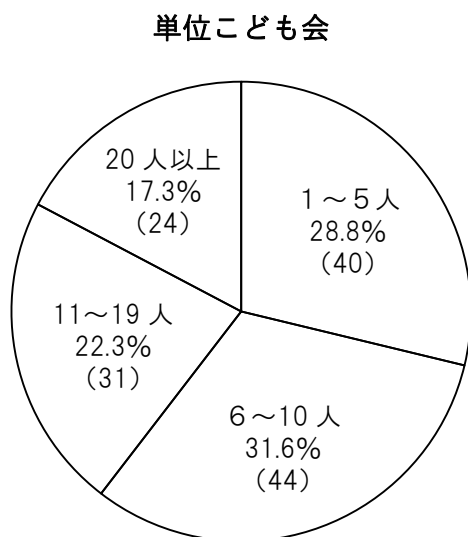
1 現在のこども会活動について

問1 現在、こども会に所属している子どもの人数と活動に携わっている育成者の人数について、次の中からあてはまるものに○をつけてください。

●子どもの人数



●育成者の人数

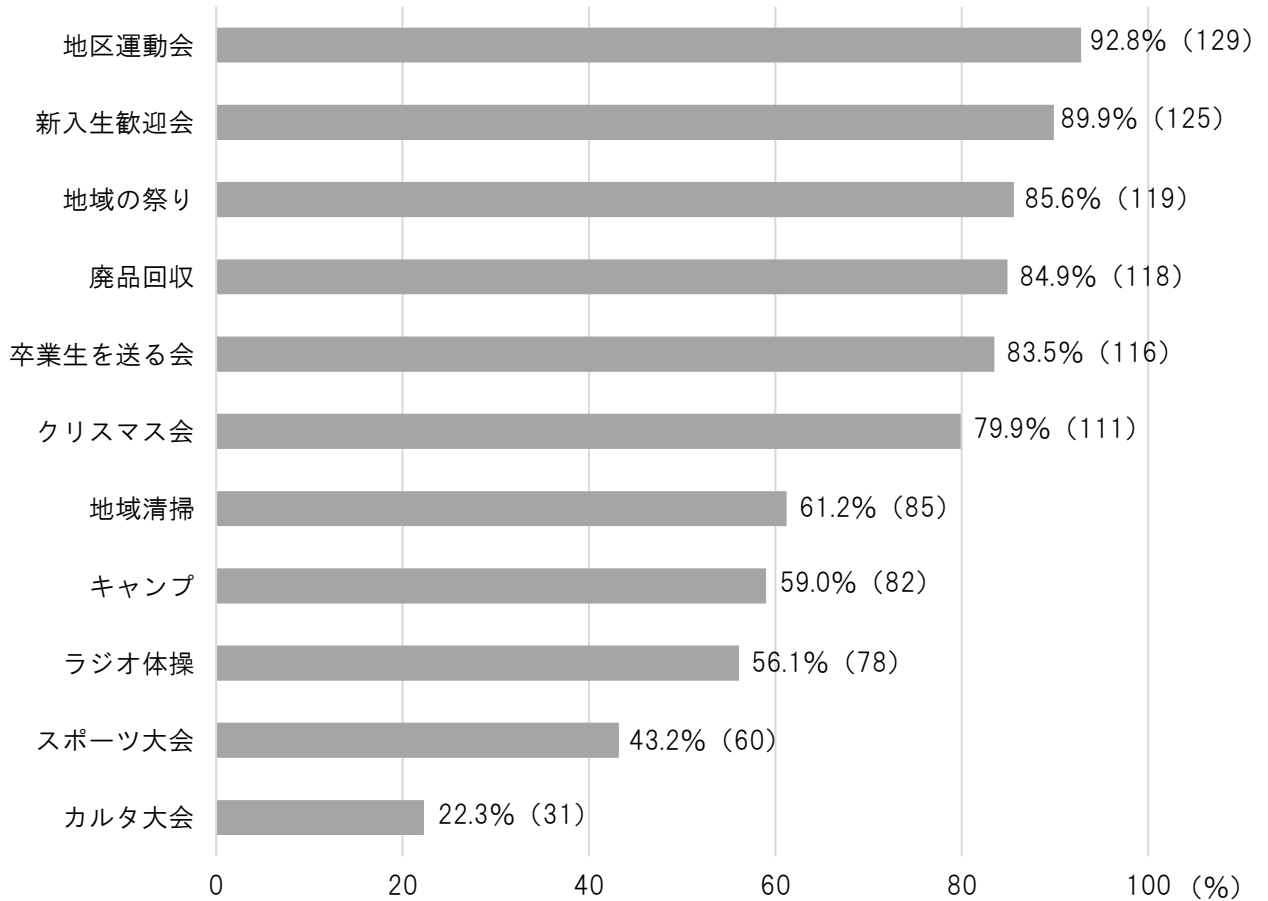


調査結果

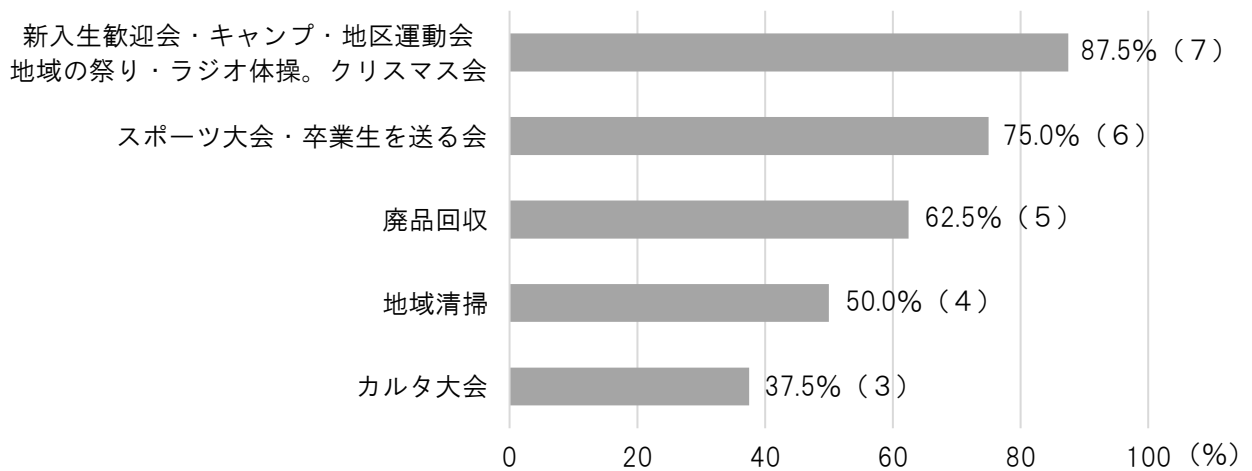
単位こども会では、子どもの人数は10～49人（76.3%）、育成者の人数は6～10人（31.6%）が最も多く、校こ連では、子どもの人数は100人以上（75.0%）、育成者の人数は20人以上（50.0%）が一番多い結果となりました。

問2 今年度（平成 29 年度）計画・実施された「こども会活動」に全て○をしてください。※複数回答

単位こども会



校こ連



【その他】

もちつき大会・観劇会・映画鑑賞会・防災訓練・歳末夜警・車イス講習会・花火大会
工作教室（UVレジンキーホルダー・キャンドルとスライム・陶芸・貯金箱等）
料理教室（ピザ・焼き芋等）・七夕かざり・ダブルダッチ・綱引き大会・バーベキュー
工場見学（チキンラーメンファクトリー等）・ボーリング大会・ハロウィン・バイキング
遠足（京都水族館・キッザニア・orbi おおさか・みかん狩り等）・地藏盆
アルバム作成・老人ホーム訪問・夏休み勉強会・ディスコンとバッコウ大会
文化展出品の作品作り・グラウンドゴルフ大会

調査結果（単位こども会の結果より）

地域に密着した活動では、「地区運動会」（92.8%）・「地域の祭り」（85.6%）・「廃品回収」（84.9%）が多く、こども会の自主的な活動では、「新入生歓迎会」（89.9%）・「卒業生を送る会」（83.5%）・「クリスマス会」（79.9%）が多い結果となりました。また、その他にも各こども会で様々な活動が行われています。

問3 今後取り組んでみたい「こども会活動」に全て○をしてください。※複数回答

単位こども会

活動内容	回答数
キャンプ	15
地域清掃	11
ラジオ体操・クリスマス会・カルタ大会	8
卒業生を送る会	4
新入生歓迎会	3
地域の祭り	2
地区運動会・スポーツ大会・廃品回収	1

校こ連

活動内容	回答数
地域清掃	1

【その他】

親子で調理実習・神社やお寺の行事参加・ファームパークへ遠足・映画鑑賞

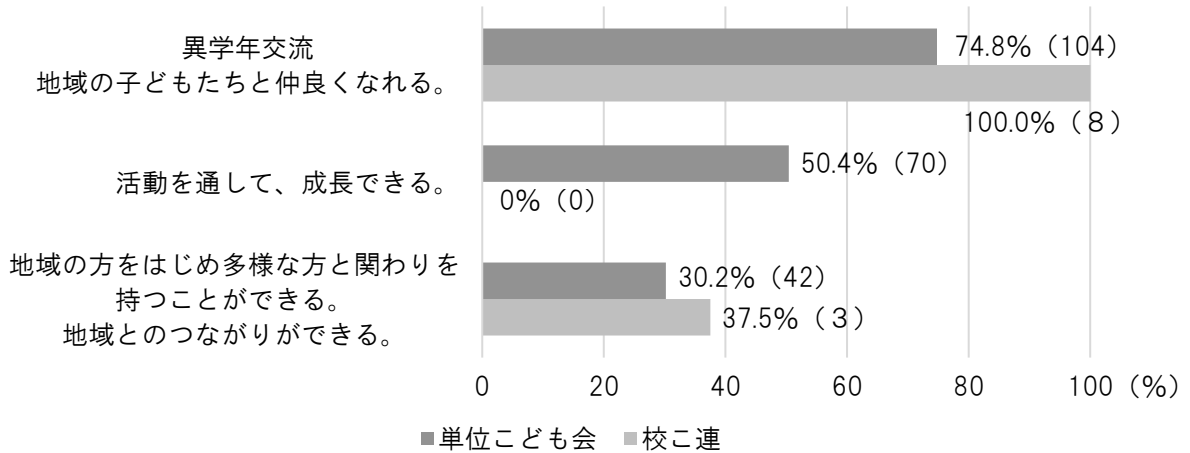
調査結果

地域に密着した活動では「地域清掃」が最も多く、こども会の自主的な活動では「キャンプ」が一番多い結果となりました。

問4 こども会活動を通じて、子どもたちが学べること（得られること）はどのようなことだと感じますか。また、保護者が学べること（得られること）はどのようなことだと感じますか。

●子ども

（自由記述欄を分類化）



【主な回答】

異学年交流・地域の子どもたちと仲良くなれる。

- ・学年を超えたつながりから遊びの幅が広がる。
- ・友人関係の幅が広がる。
- ・同学年だけでなく、低学年から高学年までと一緒に活動することによって仲良くなり地域全体のまとまりが良くなると思う。

活動を通して、成長できる。

- ・普段遊ばない子どもとチームを組むことで、協調性・社交性が身につくと思う。
- ・高学年が低学年のお世話をする事で思いやりや責任感が生まれる。
- ・子ども一人一人が仲間といろいろなことを体験していく中で失敗したり成功したりして成長していける。
- ・誰かのために何かを企画したり、行動することで喜びを得られるという体験ができる。
- ・異学年との交流、近所の子との交流により、いろいろな子とのコミュニケーションを学べる。

地域の方をはじめ多様な方と関わりを持つことができる。

地域とのつながりができる。

- ・親でも先生でもない大人と関わりあえる場である。
- ・地域と関わることにより、いろいろな目で見守ってもらえる。
- ・同じ地域に住む大人との関わりの中で、地域住民の一員だという自覚がもてる。
- ・地域の普段交流のない大人と祭りや運動会で交流できるので、大人との関わり方や地域の歴史を学ぶことができる。

- ・地域の活動をお手伝いすることで、自分が住んでいる地域（町内）の良いところを見つけていると思う。

☆このような回答もありました☆

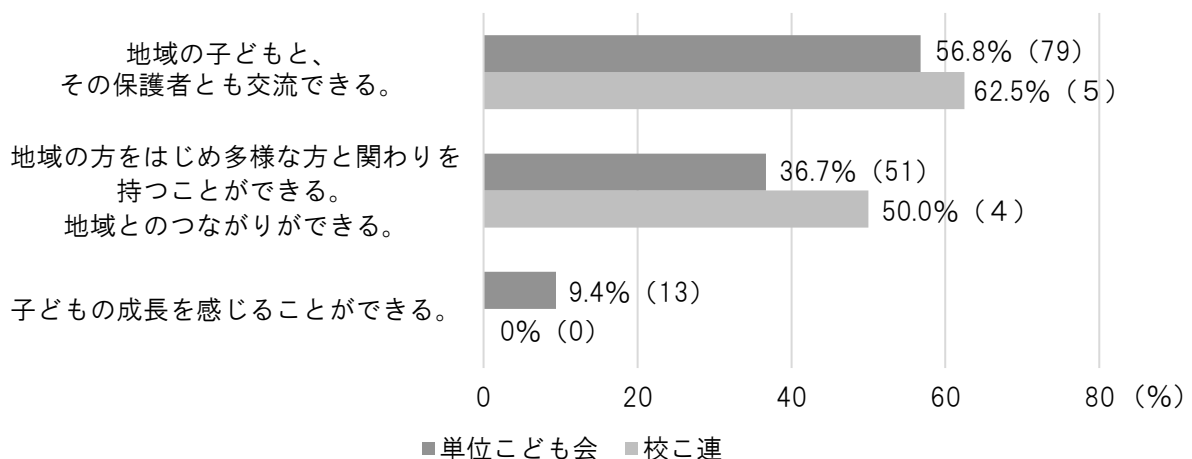
- ・こども会ならではの行事に参加することで思い出もできる。
- ・季節の行事に触れ、それぞれの行事の意味を知ることができる。
- ・家庭だけでは経験できないイベントやレクリエーションに参加できる。

調査結果（単位こども会の結果より）

子どもたちが学べることについて、最も多かった回答は「異学年交流・地域の子もたちと仲良くなれる。」（74.8%）で、続いて、「活動を通して、成長できる。」（50.4%）、「地域の方をはじめ多様な方と関わりを持つことができる。地域とのつながりができる。」（30.2%）が多い結果となりました。

●保護者

（自由記述欄を分類化）



【主な回答】

地域の子もと、その保護者と交流できる。

- ・同じ地域の子もでも、こども会活動がないと関わるのがほとんどないので、顔と名前を一致させ、地域全体で見守ることができる。
- ・今まで個々で子育てされていた方もこども会の活動を通じて、信頼関係などが築け（横のつながり、見守りなど）、何か困ったことがあれば相談できる関係が持てるようになると思う。
- ・住んでいる地区の行事に子どもが多く関わることにより、知り合いも増え、お互いに協力できる機会が増えることで安心感がある。また、自分の子ども以外の子もと関わることで広い視野をもって生活していけるのではないかなと思う。

地域の方をはじめ多様な方と関わりを持つことができる。

地域とのつながりができる。

- ・ 地域の方との関わりからいろんなことを教えていただける。
- ・ いろんな方々のおかげで子ども達が楽しく活動させて頂けていることを身をもって知ることができ、感謝の気持ちでいっぱいになった。もっと地域行事に参加しないといけないと思うようになった。
- ・ その地域の風習などが知れる。
- ・ 学校だけでなく、地域との連携を通じて、子どもを育てているという自覚。
- ・ こども会活動をするまで、地域の方の支えがあることに気づいていなかった。地域のことを知ったり、人とのつながりが増えたり、子どもを支えたいという気持ちが強くなると思う。

子どもの成長を感じることができる。

- ・ 高学年の子たちは我々が思っている以上にしっかりしていて、安心していろんなことがまかせられました。6年間でとても成長することが感じられ、嬉しく思う。
- ・ 子どもたちで、進んで行動する成長ぶりを近くで感じることが出来る。
- ・ 我が子と地域の子どもたちがどのような関わり方をしてすごしているのか、成長の様子を見ることができる。
- ・ 子どもの成長を年間通して見守ることができる。
- ・ 家庭内とは違う子どもの成長を見ることができる。

☆このような回答もありました☆

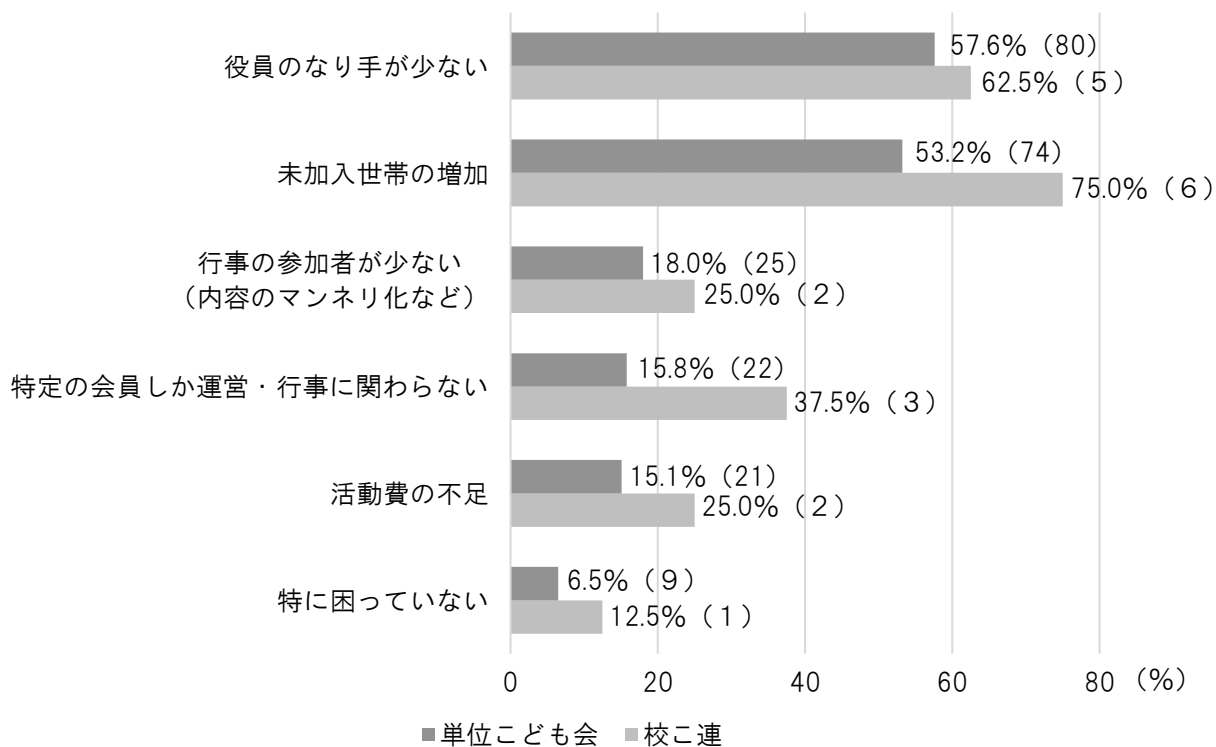
- ・ 町内の地理、危険箇所を把握できる。
- ・ 我が子以外への指導の難しさ。
- ・ 子どもたちの安心安全について気を配るようになった。
- ・ 子どもと大人が遊びを通して地域を基盤とした活動を行う。
- ・ 子どもと一緒にきまりを守るなど、忙しい中でも生活面がきちんとするところ。
- ・ 子どものためにより良い環境作り。
- ・ こども会の運営の仕組みを知れる。
- ・ 行事を通して季節感を感じることが出来る。

調査結果（単位こども会の結果より）

保護者が学べることについて、最も多かった回答は「地域の子どもと、その保護者とも交流できる。」（56.8%）で、続いて、「地域の方をはじめ多様な方と関わりを持つことができる。地域とのつながりができる。」（36.7%）が多い結果となりました。

2 こども会活動の課題について

問1 運営上の課題となっている項目について、あてはまるもの全てに○をつけてください。その他に該当する場合は、その内容を具体的にご記入ください。
※複数回答



【その他】

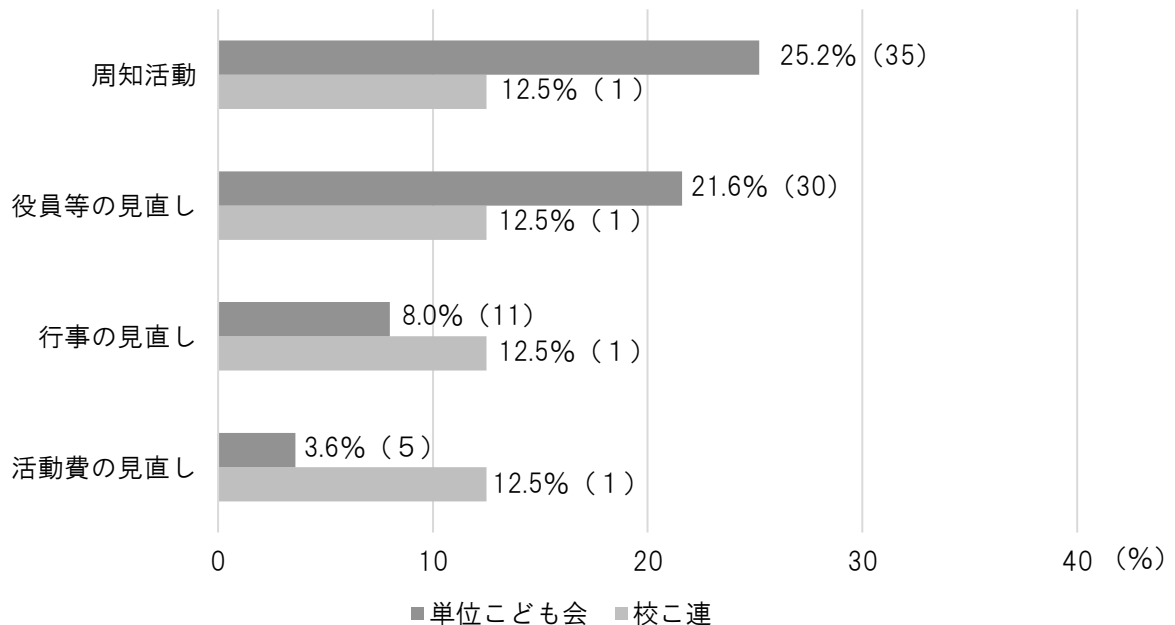
- ・世帯数が少なく、活動における負担が大きい。
- ・自治会が立ち上がらない。
- ・働きながら子どもを育てる母親が増えているため、負担が大きい。
- ・低学年が多く、又兄弟に未就学児が多く、特定の保護者への負担が増加してきている。
- ・外部のスポーツ組織や習い事が忙しく、途中でこども会を退会する人が増加傾向にある。
- ・新入生の情報がない。
- ・キック・ソフトの指導者が不足。
- ・自治会未加入世帯が増加しており、地域的に自治会とのつながりを考えると、こども会だけの入会を積極的には勧めにくい。

調査結果 (単位こども会の結果より)

運営上の課題について、最も多かった回答は「役員のなり手が少ない」(57.6%)で、続いて、「未加入世帯の増加」(53.2%)が多い結果となりました。

問2 課題を解決するために工夫している取組み等があればご記入ください。

(自由記述欄を分類化)



【主な回答】

周知活動

- ・ポスターを掲示して入会をすすめる。
- ・口コミを広げる。
- ・クリスマス会などに未加入世帯の子どもたちを招待し、こども会への加入をアピールしている。
- ・自治会と協力して自治会の回覧にもこども会の案内を入れて頂くようにした。
- ・近所に新入生がいると分かたら、知っている方からこども会のことを説明して頂いて勧誘している。
- ・会員募集のチラシを配る。
- ・こども会に参加する利点があると感じてもらえる活動をして多くの人に知ってもらう。

役員等の見直し

- ・役員のみで運営すると負担が増えて、ますますなり手が減りそうなので、役員以外の保護者にも手伝いとして行事に参加してもらい、役員の負担を減らしている。
- ・役員以外からサポートしてくれる会員を募って、サポート隊を結成している。
- ・役員のみには負担がかからないように、係制を導入し、仕事を分担して負担を減らした。
- ・会長1人の負担があまりに大きかったので、他の役員と等分に負担することにしました。
- ・役員がすべてを担うのではなく、行事毎に分担を決め役員の負担を減らしている。
- ・役員は4年生以上の保護者で未経験者が優先的になるようにしている。
- ・世帯数が少ないので、役員をする回数を子どもの数と同じにしている。

- ・毎年6年生の保護者で役員をやっている。
- ・必ず役員経験のある方がフォローできるように役員を決める。

行事の見直し

- ・マンネリ化への工夫（クリスマス会のゲーム内容の見直し等）
- ・休日は習い事等で参加しにくい子も一定数いるので、遠足やクリスマス会は創立記念日や終業式の午後などの平日に行った。
- ・内容のマンネリ化もあり、クリスマス会にキャンプカウンセラーさんに来ていただいた。※1
- ・こども会役員の負担を減らすよう行事の簡素化をはかっている。

活動費の見直し

- ・廃品回収の呼びかけを積極的に行い、報奨金などの増収を心がけている。また、行事に関わる経費の支出に無駄のないよう努めている。※2
- ・会費を集めたり、廃品回収の回数を増やして報奨金をもらうようにする。
- ・自治会へ補助金のお願いをする。

☆このような回答もありました☆

- ・有志で会議をし、必要に応じて色々な働きかけをおこなっている。

※1：キャンプカウンセラーによるこども会冬の行事のお手伝い

毎年12月の土日祝に茨木市青少年野外活動センターのキャンプカウンセラーが市内のこども会冬の行事にゲームなどのレクリエーション指導を実施しています。平成30年度は、58こども会（参加人数：2,525人）で実施しました。

※2：茨木市再生資源集団回収報奨金制度

ごみの減量及び資源の有効利用を図るため、自主的に再生資源集団回収を行う地域住民団体等に対し、報奨金を支給しています。平成29年度は、178こども会がこの制度を活用されました。

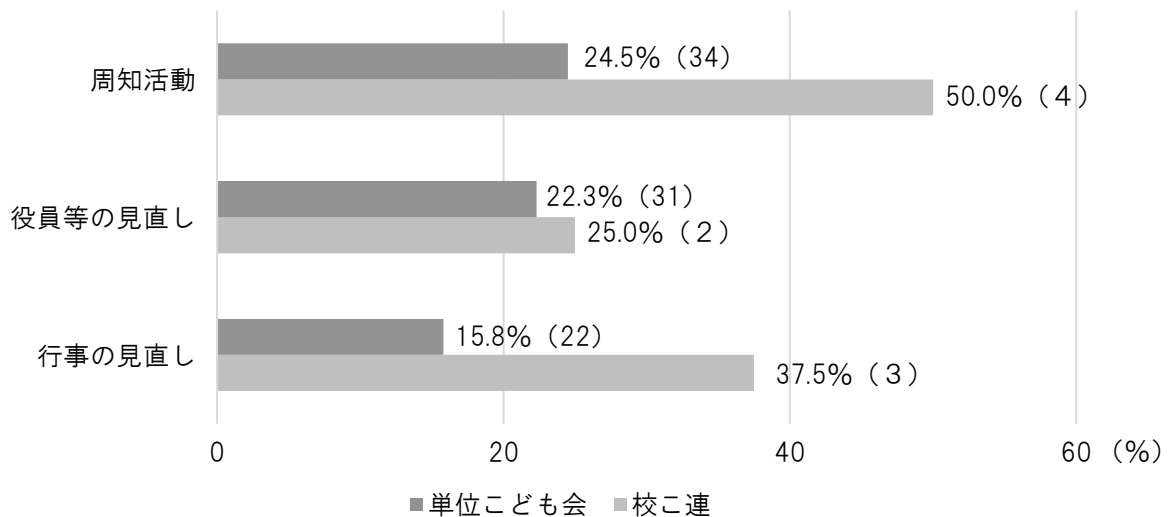
調査結果（単位こども会の結果より）

課題を解決するために工夫している取組みについて、最も多かった回答は「周知活動」（25.2%）で、続いて、「役員等の見直し」（21.6%）が多い結果となりました。

3 こども会加入に向けての取組みについて

問1 ここ数年、こども会への加入率が減少し、地域で活動する子どもが少なくなっています。一人でも多くの子どもが地域行事に参加するためには、どのような方策が考えられますか。あなたのお考えをお書きください。

(自由記述欄を分類化)



【主な回答】

周知活動

- ・ 宣伝をより積極的にすべきと思う。活動内容を知らない世帯も多いと思う。
- ・ こども会に対するイメージが「とにかく役員になったら大変だ」というマイナス面が大きいので、その不安を取り除けるようなプラスのアピールができればもっと加入率は上がると思う。(母親同士仲間が増える、地域の人達と知り合えて防犯上安心等)
- ・ 大人のためではなく、子どものために”こども会”に加入して、どんなメリットがあるか知ってもらうことが大切だと思う。
- ・ 就学前の段階で保護者の方にこども会に参加することの意義を伝える機会をもっと設ける。
- ・ 保護者の方へのお誘い時、役員等の負担を減らしていること、親子で楽しんでもらう企画に変化していること等をアピールしている。
- ・ 地域にポスター等を貼らせてもらい、こども会をもっとアピール！今年より近隣の幼稚園等にはポスターを貼らせてもらいました。
- ・ 子どもたちに楽しんでもらい、子どもたちから声を掛け合ってもらい、広まっていくてくれればよいと思う。
- ・ 遠足などに親と未就学児も招待して、一緒に遊んだりして楽しさを感じてもらい、こども会加入につなげる。

役員等の見直し

- ・活動や役員ができないなどの家庭については役員以外での協力をお願いするなどお互い協力しあえる体制を持つことができれば、気持ちよく子どものために取り組むことができるのではないかと思う。
- ・親が忙しいので1人1人の負担を少なく分担させていった方がよいと思う。 unnecessaryな会議や書類など極力少なくする。
- ・保護者だけでこども会行事を進めるのではなく、地域ボランティア、高校生や大学生の協力があれば、保護者の負担が減ると思う。
- ・母親の就業率が増えている現在、この流れは変えられないと思う。一昔前は、専業主婦の方が多く、主婦も地域に密着した生活を送れていましたが今はなかなかできない。男性の地域活動への参加の呼びかけをもっと増やせば、減少を止められるかもしれない。

行事の見直し

- ・家族だけでは行けないような所に行き、興味を持ってもらう。
- ・忙しくしている親が子どもにぜひ体験させたいと思わせる行事を作っていく。
- ・こども会に入らないと経験できないような楽しい企画をしていくことが必要。
- ・子どもに何をしたいかと聞いて、子ども中心に行事を作っていく。

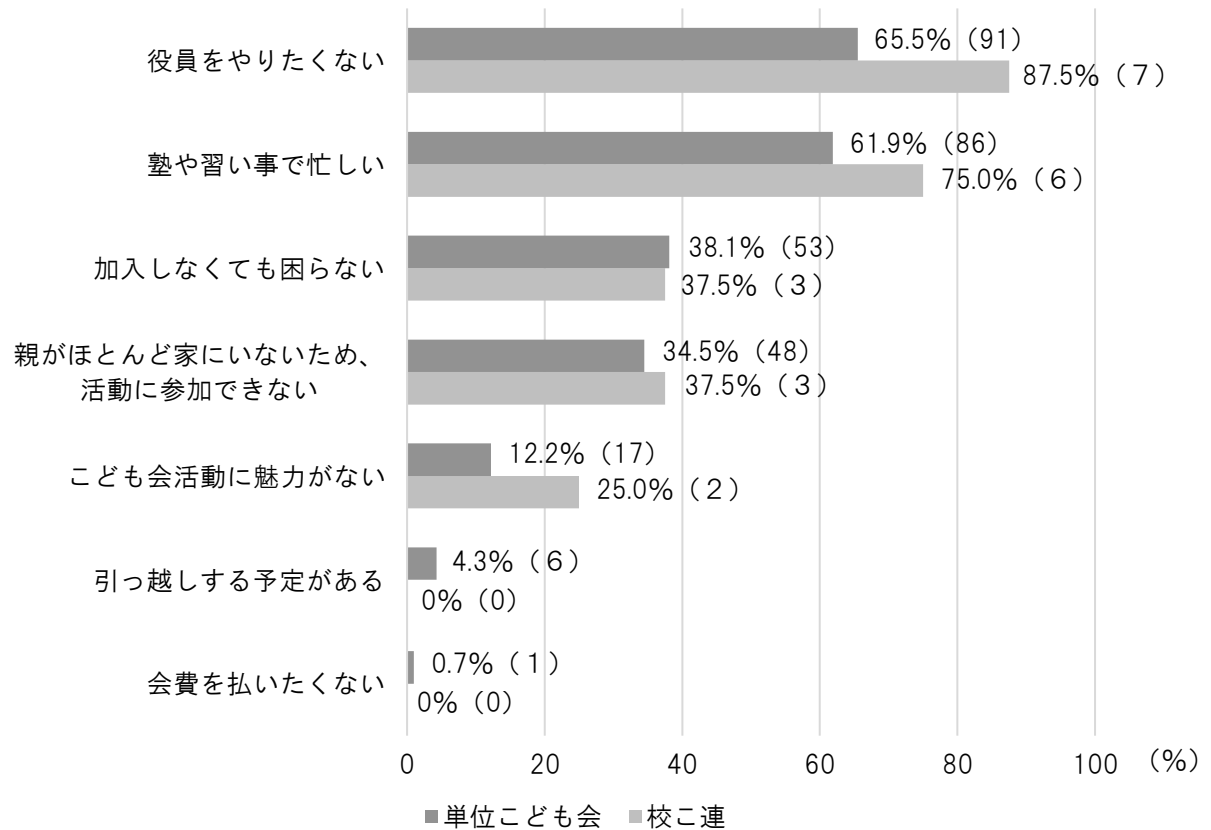
☆このような回答もありました☆

- ・こども会費の無償化（今年度は半額に減額し、運営を組み立て）
- ・各こども会の人数も減っていることも含め、各行事毎に2~3のこども会が合同で行うのも良いかと思う。
- ・子どもたちは活動を楽しみに加入したいと思っているが、保護者が役員などの役をめんどくさがつて加入しないと思う。その考え方を根本的に変えないと難しいと思う。
- ・説明会（保険やキャンプ）をもっと簡易にネット申し込みができるようになどをしていけば少しでも負担が減るのではないかと思う。
- ・地域ごとの団結力向上がはかれれば、自ずと加入者も増加すると思う。
- ・子どもたちが地域の中で安心して過ごせるためには、こども会活動等を通して関わりを持っていくことが大切なことの一つであるという雰囲気・環境作りが大切だと思う。
- ・校ご連の負担を減らすこと。
- ・地区の中でこども会がない所に働きかけられたらいいなと思う。

調査結果（単位こども会の結果より）

一人でも多くの子どもが地域行事に参加するための方策について、最も多かった回答は「周知活動」(24.5%)で、続いて、「役員等の見直し」(22.3%)、「行事の見直し」(15.8%)が多い結果となりました。

問2 加入をしない世帯から、聞いておられる理由があれば全てに○をつけてください。その他に該当する場合は、その内容を具体的にご記入ください。
※複数回答



【その他】

- ・ 周囲に加入者が少ない。
- ・ 子ども同士の仲が悪い。
- ・ 週末は家族で過ごしたい。(共働きのご家庭など)
- ・ 子どもが行事に参加したがない。
- ・ 仕事で忙しくつきそえない。役員ができない。
- ・ 自分の周りの友だちだけで充分。入会したら簡単に退会できなさそう。
- ・ 子ども会に興味はあるが自治会に加入したくない。
- ・ 自治会に入っていないから。

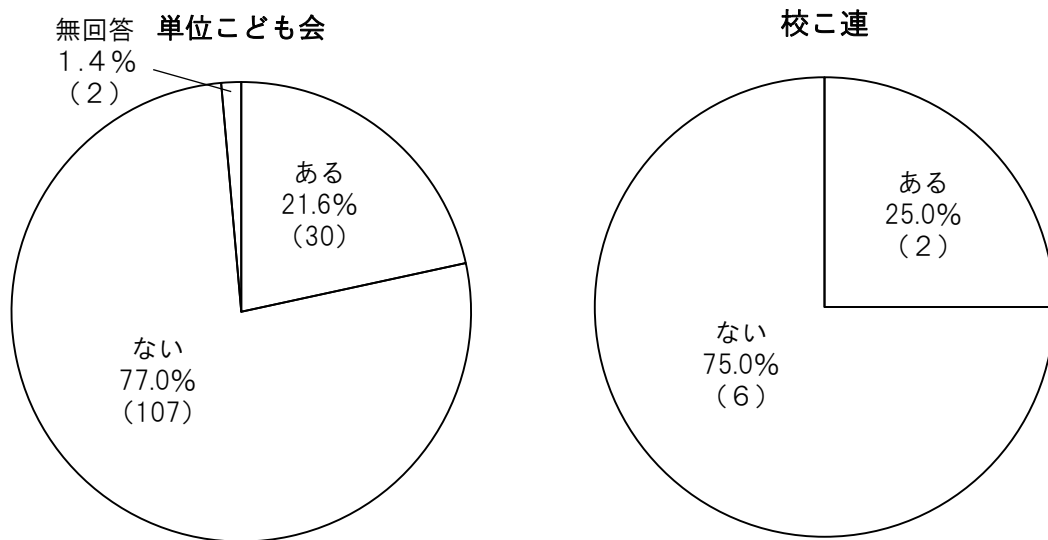
調査結果 (単位子ども会の結果より)

加入しない理由について、多かった回答は「役員をやりたくない」(65.5%)・「塾や習い事で忙しい」(61.9%)で、続いて、「加入しなくても困らない」(38.1%)・「親がほとんど家にいないため、活動に参加できない」(34.5%)が多い結果となりました。

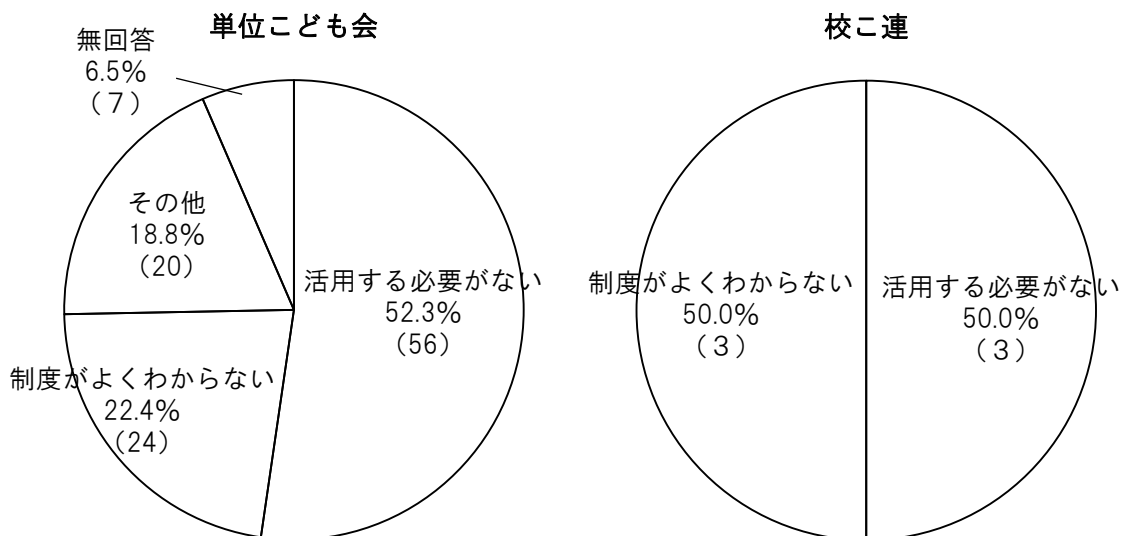
4 社会教育振興課の取組みについて

問1 こども会サポーターを活用したことがありますか。次の中から、あてはまるものに○をつけてください。

※こども会サポーターとは、こども会活動を支えるために、茨木市内にお住まいの子ども好きな18歳からおおむね75歳までの方を対象に、自治会の回覧板や市のホームページを通じて、平成27年度から募集しているものです。こども会サポーターには、希望のあったこども会で活動のお手伝いをお願いしています。



問2 前問で「ない」に○をされた方にお伺いします。活用しない理由として、次の中からあてはまるものに○をつけてください。その他に該当する場合は、その内容を具体的にご記入ください。



【その他】

- ・活用するタイミングをのがしてしまっている。打合せなどに時間をとれないと思って、活用しないままになっている。育成者で何とか出来ているのですが、一度は活用したいと思っている。
- ・お手伝いはありがたいが、その事に対しての事前の準備などにも時間がかかるように思われる。
- ・知らない方に来てもらって、どう関わってもらったらいいか不安もある。
- ・機会をとらえられなかった。
- ・何か活用するにしても休みの日など各子ども達も習い事や用事などあり人数が集まらないと予想できるため。

調査結果

活用しない理由について、単位こども会・校こ連ともに回答の約半数が「活用する必要がない」で、続いて、「制度がよくわからない」が多い結果となりました。また、その他にも各こども会から制度について様々な意見をいただきました。

問3 社会教育振興課に今後希望される行事や、情報提供等がございましたらご記入ください。

【主な回答】

- ・大学生や高校生のこども会サポーターの人数が増え、頻繁に子どもたちと触れ合う体制ができることを希望する。
- ・年間で提出しなければならない書類が何か、年度初めに配布していただけると助かります。
- ・80人位の子もたちとできるもの作りの講師の方がいませんでした。材料費が安く、一度に大勢の子もとももの作りができる方を紹介して頂きたいです。
- ・こども会で参加しやすいお得なイベント情報。
- ・こども会みんなで参加できる行事を百人一首大会、スポーツ大会以外で、気軽に参加できるようなものがあればいいなと思います。
- ・単位こども会でも勧誘チラシの作成を検討していますが市としてのこども会勧誘の魅力的なパンフレットや案内などがあれば助かります。
- ・スポーツ大会だけではなく、他の種目、ドッチビーや大縄などの競技もして頂けたら参加人数も変わると思う。
- ・今後も定期的に情報を発信してほしい。
- ・ソフトボール、百人一首の参加数が年々減っているの、ルール上大会の参加自体諦めなくてはならないような状況も考えられる。現状を踏まえた対策等お願いします。

Ⅲ アンケートのまとめ

活動を通じて学べること(得られること)として、最も多かった回答は、子どもたちからは「異学年交流・地域の子どもたちと仲良くなれる。」、保護者からは「地域の子どもと、その保護者とも交流できる。」であり、地域の子どもやその保護者とのつながりを深められることを良い点として感じていることが伺える結果となりました。

次に、活動の課題として、多かった回答は「役員のなり手が少ない」「未加入世帯の増加」、課題解決のために工夫している取組みとして、多かった回答は「周知活動」「役員等の見直し」でした。各こども会で担い手不足を解決するために様々な取組みをされており、具体的な工夫をご記入いただいているので、各こども会でも参考にしてください。

次に、一人でも多くの子どもがこども会などの地域行事に参加するための方策として、多かった回答は単位こども会では「周知活動」「役員等の見直し」、また、校区全体では「行事の見直し」も多く、課題を解決するために工夫している取組みと同様の結果となっています。また、こども会未加入世帯が加入しない理由として、多かった回答は「役員をやりたくない」「塾や習い事で忙しい」が多い結果となりました。こども会活動には参加したいが一歩踏み出せない保護者と子どものそれぞれの事情が伺える結果となりました。

最後に、こども会サポーターを活用したことがあるこども会は全体の約 20%に留まっていることから、サポーターの紹介や申し込みの方法を工夫し、こども会のニーズにあう取組みとしていく必要があると再認識いたしました。

今回のアンケート結果を、茨木市こども会育成連絡協議会等の関係団体と共有し、魅力のあるこども会行事や役員負担の軽減方法等について、検討を行ってまいります。